

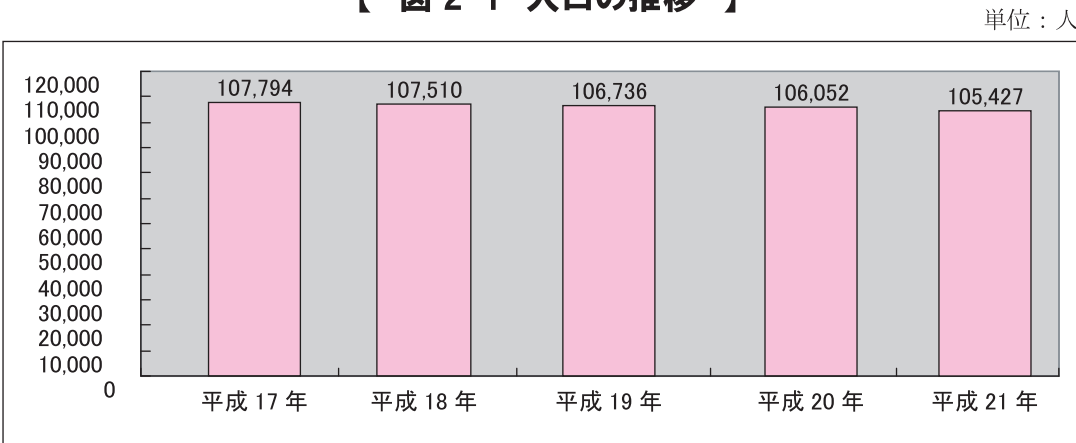
第2章 三条市の現状と課題

1 少子化の状況

(1)人口の推移

現在の三条市は、平成17年5月に旧三条市、旧栄町、旧下田村の3市町村が合併し、人口10万人を超える市となりました。しかし、合併後の人口の推移を見ると、年々減少傾向にあり、平成17年4月の人口が107,794人であったのに対し、平成21年4月は、105,427人となり、2.2%の減少となっています。

【 図 2-1 人口の推移 】



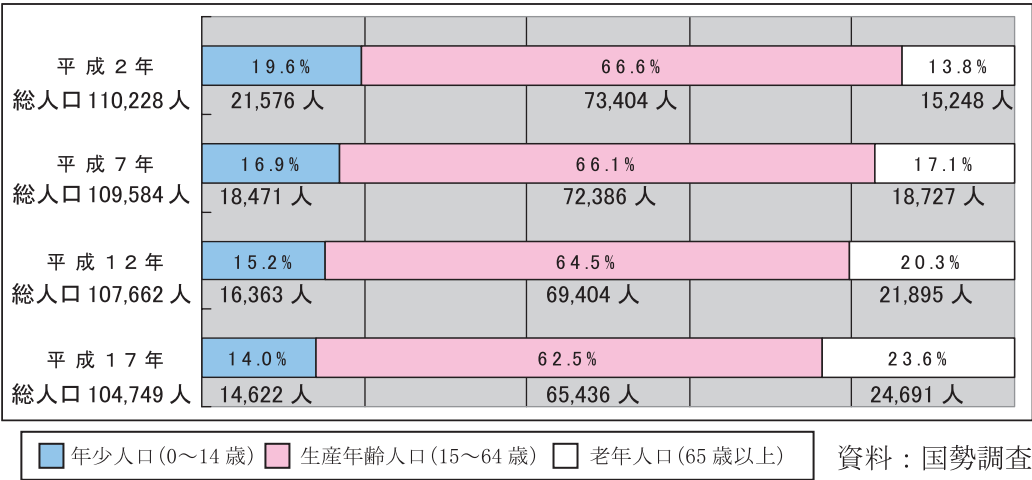
資料：住民基本台帳(各年3月31日現在)

また、年齢別（3区分）で見ると、年少人口（0～14歳）は、平成12年には16,363人と総人口（107,662人）の15.2%でしたが、平成17年には14,622人で総人口（104,749人）の14.0%に減少しています。

一方、65歳以上の老年人口は、平成12年は、21,895人と総人口の20.3%でしたが、平成17年には24,691人で、総人口の23.6%と増加しています。

この傾向は今後も一層進行すると考えられ、三条市の少子高齢化が急速に進展していくことが推測されます。

【 図2-2 年齢3区分別人口の推移 】

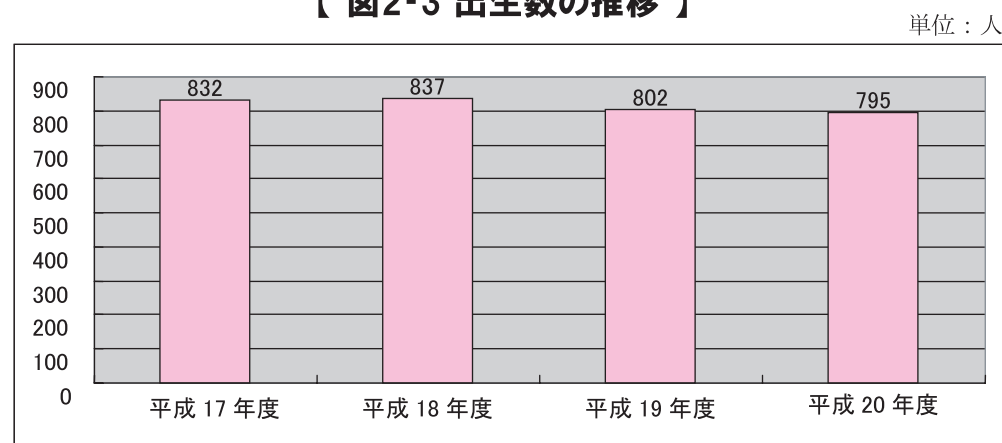


(2) 出生の動向

三条市の出生数は、平成17年度832人に対し、平成20年度は795人で、800人台を割り込みました。

平成11年度の出生数1,095人と比較すると、平成20年度は27.4%減少しています。三条市の人口が減少傾向であるのに比例し、出生数も減少傾向にあります。

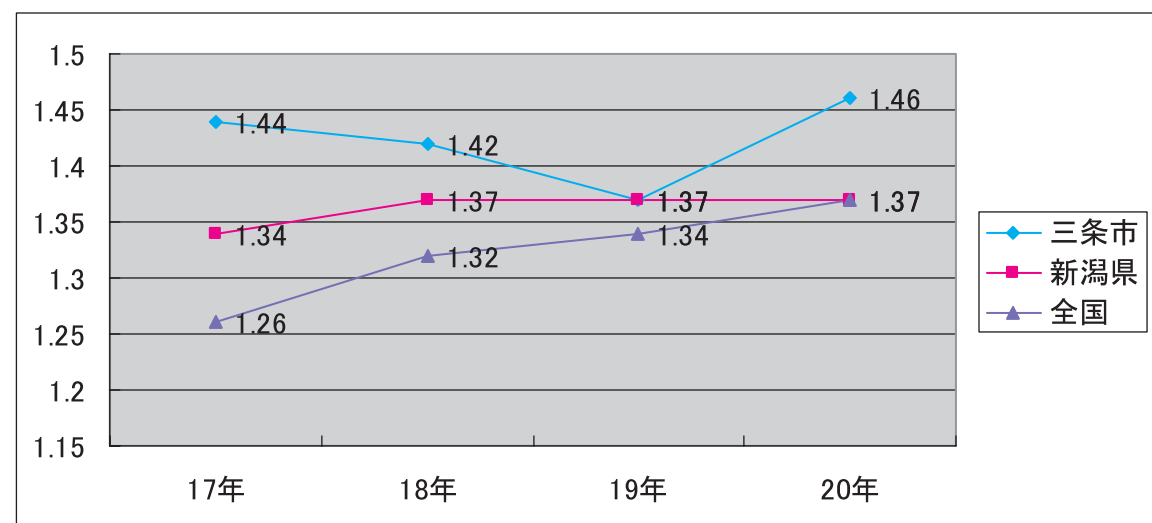
【図2-3 出生数の推移】



資料：住民基本台帳(各年度3月31日現在)

また、三条市の合計特殊出生率は、平成17年から徐々に減少傾向となっていますが、平成20年については1.46になり、全国・県の1.37に比べると高くなっています。

【図2-4 合計特殊出生率の推移】



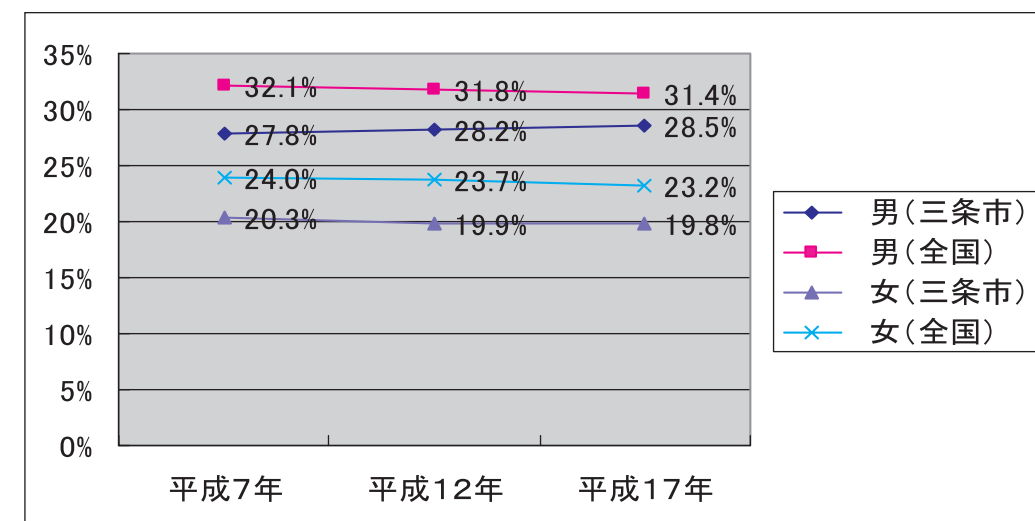
資料：新潟県 福祉保健関係 統計情報

(3) 婚姻の動向

少子化の要因の1つとされている未婚率について、三条市は全国平均に比べ、男女とも下回っています。

平成17年では、三条市における男性の未婚率（28.5%）は全国（31.4%）をわずかに2.9ポイント下回っており、女性の未婚率（19.8%）は全国（23.2%）と比べ3.4ポイント下回っています。

【図2-5 未婚率の推移】



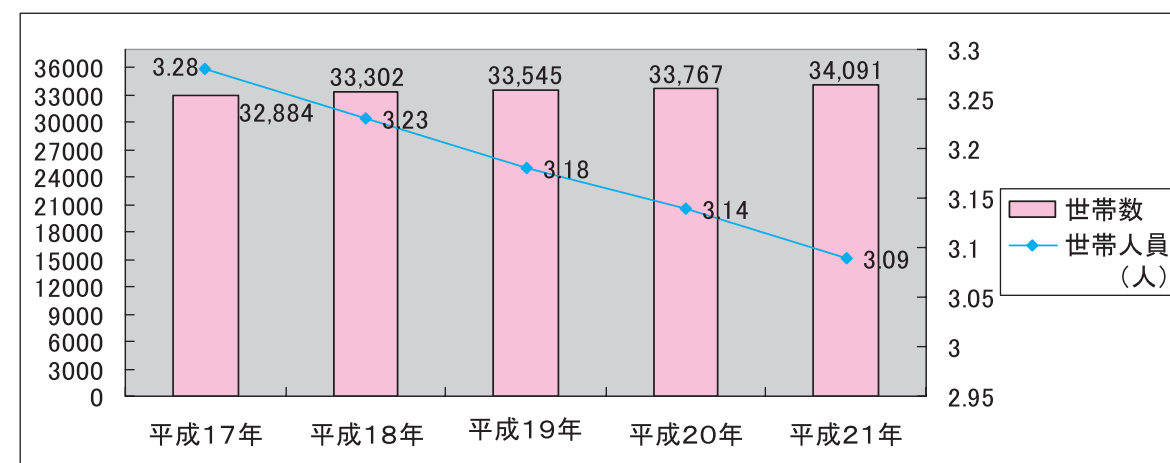
資料：国勢調査

2 家族や就労環境等の動向

(1) 世帯の動向

三条市の世帯数は増加傾向にあり、平成21年では34,091世帯となっています。しかし、その一方で平均世帯人員は減少しており、平成21年3.09人となっています。

【図2-6 世帯数及び世帯人員の推移】



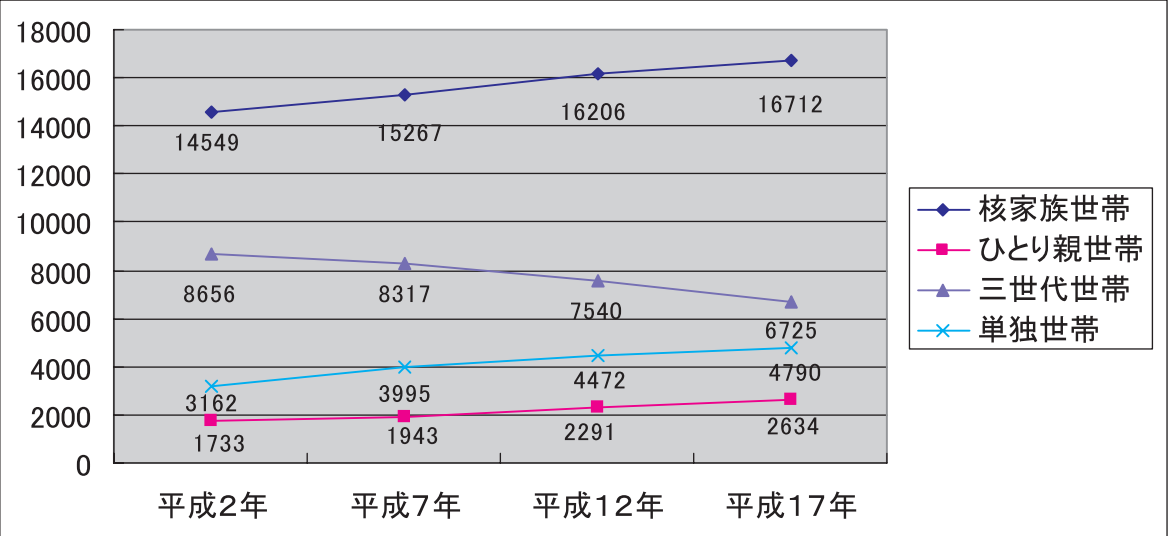
資料：住民基本台帳(各年3月31日現在)

(2)世帯構成

平成17年の国勢調査における世帯構成は、核家族世帯が16,712世帯で最も多く、次いで、三世帯世帯の6,725世帯となっています。

平成2年からの推移を見ると、三世帯世帯のみ減少しており、それ以外の世帯については、増加傾向にあります。

【 図2-7 世帯構成の推移 】



資料：国勢調査

(3)就業状況

平成17年の国勢調査における就業者数の総数は54,309人であり、女性が23,709人と就業者全体の43.7%で、ほぼ横ばいとなっていますが、国・県と比べると、女性の就業割合が高くなっています。

【 表2-1 就業者数(15歳以上)の推移 】

		単位：人					
年次	性別	全 国	割合	新潟県	割合	三条市	割合
平成 2 年	総数	61,681,642	100%	1,282,063	100%	59,367	100%
	男	37,245,465	60.4%	739,168	57.7%	33,861	57.0%
	女	24,436,177	39.6%	42,8944	42.3%	25,506	43.0%
平成 7 年	総数	64,141,544	100%	1,317,329	100%	60,150	100%
	男	38,528,962	60.1%	763,095	57.9%	34,217	56.9%
	女	25,612,582	39.9%	554,234	42.1%	25,933	43.1%
平成 12 年	総数	62,977,960	100%	1,265,803	100%	56,849	100%
	男	37,248,770	59.1%	728,564	57.6%	32,362	56.9%
	女	25,729,190	40.9%	537,239	42.4%	24,487	43.1%
平成 17 年	総数	61,505,973	100%	1,225,575	100%	54,309	100%
	男	35,735,300	58.1%	698,895	57.0%	30,600	56.3%
	女	25,770,673	41.9%	526,680	43.0%	23,709	43.7%

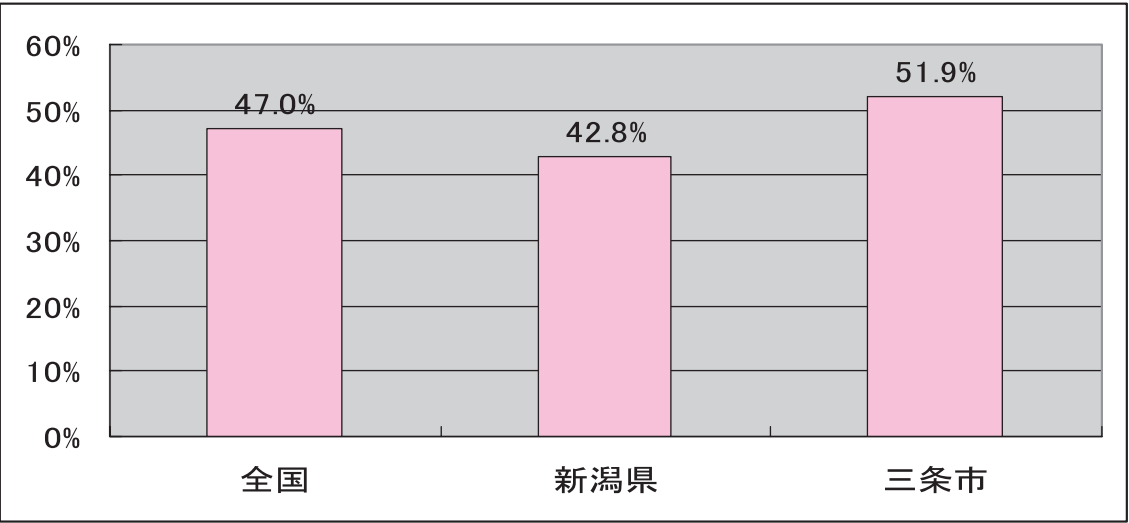
資料：国勢調査

(4)産業の状況

三条市における製造業は、平成18年において、金属製品製造業が全体の約41.9%を占め、全国でも有数の金属加工の産地として知られています。

また、平成18年において、市内全事業所における小規模事業所（従業員数4～9人）の割合が51.9%を占めるなど、国・県の平均と比べ小規模事業所が多いことも、本市の特徴となっています。

【 図2-8 小規模事業所(4～9人)数の比較 】

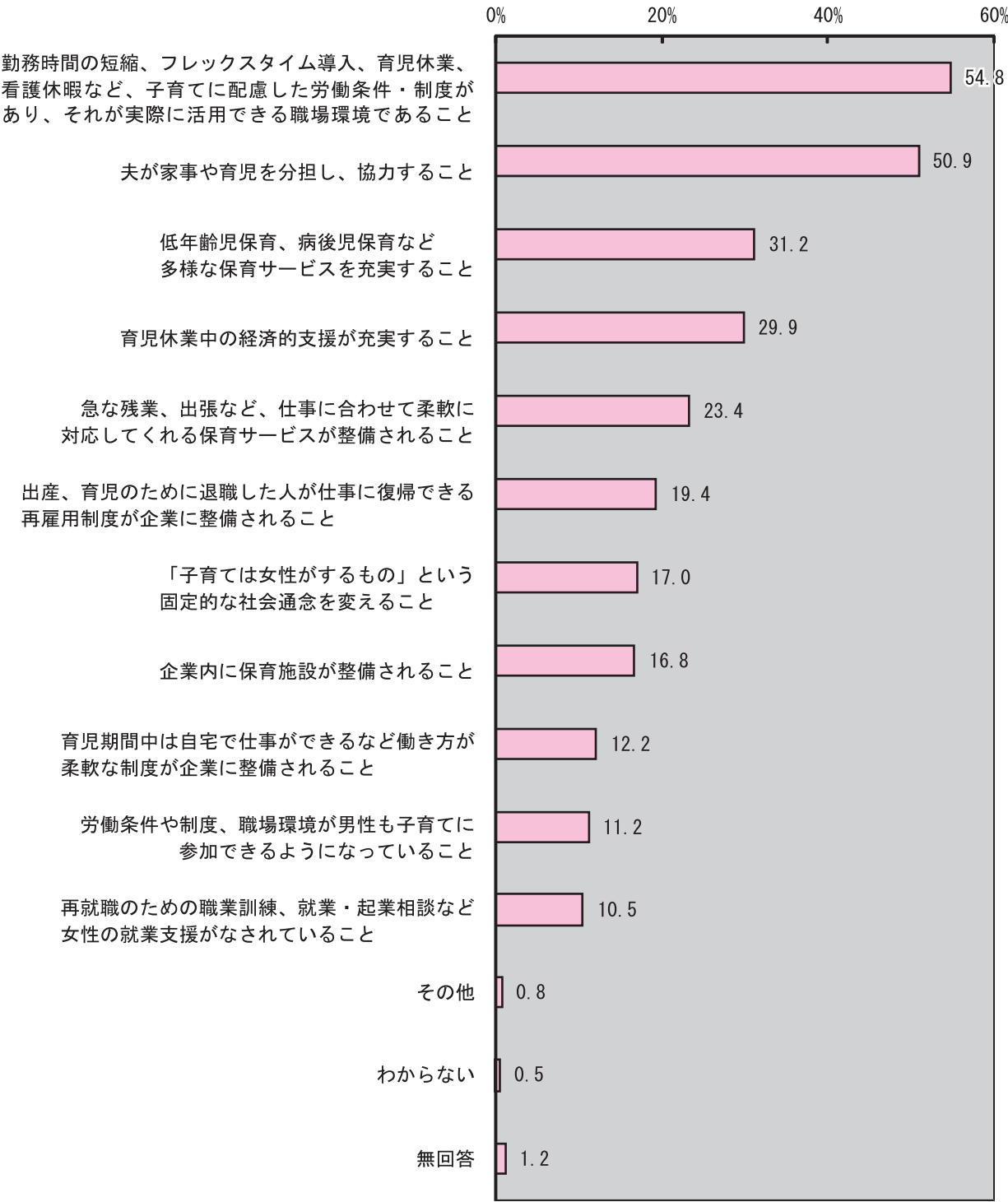


資料：平成18年工業統計調査

(5)就労環境

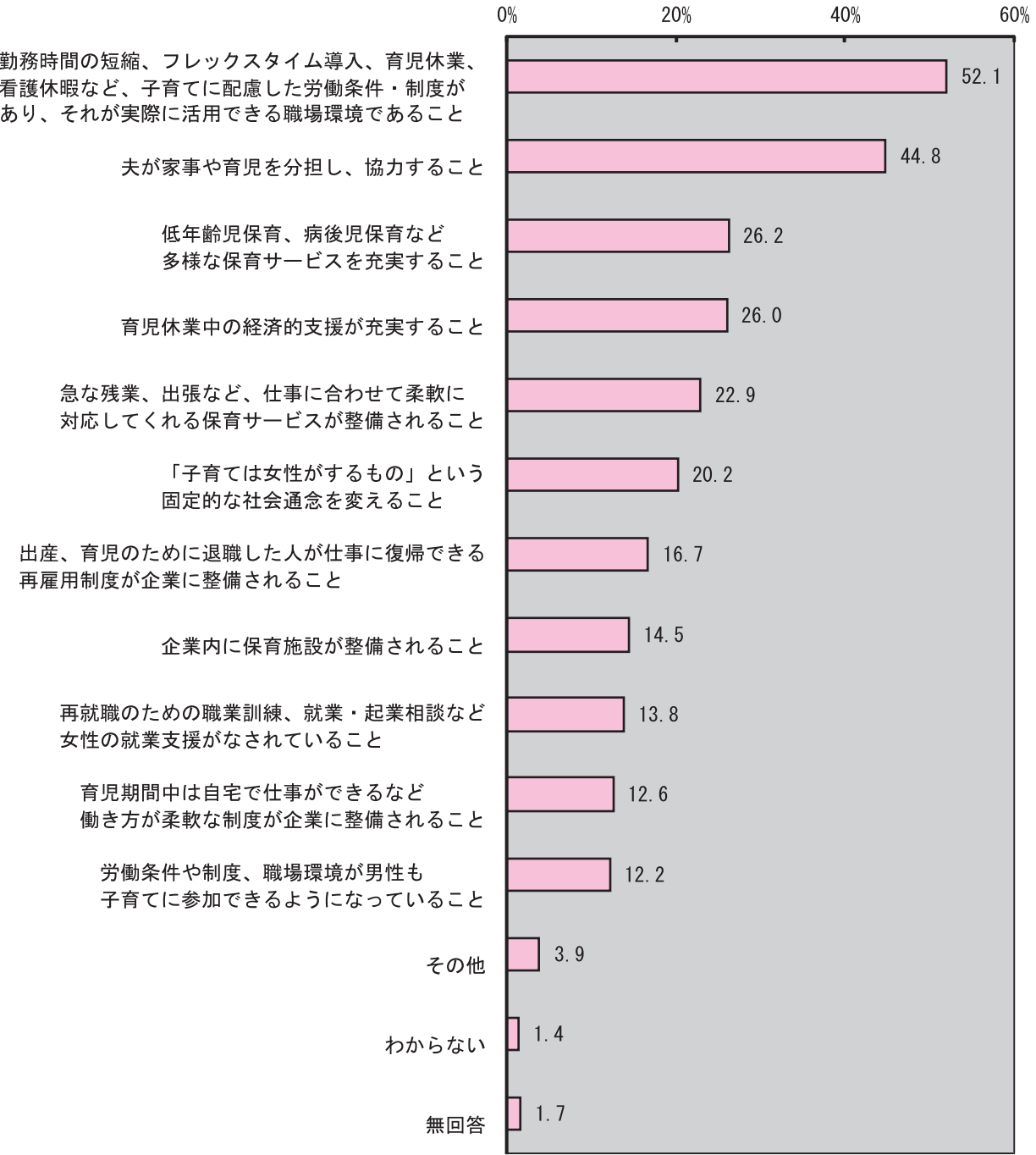
平成20年1月に実施した「三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査」で、女性が子どもを育てながら働くために重要な就労環境について尋ねた結果、就学前児童の保護者、小学校1～3学年児童の保護者ともに「勤務時間の短縮やフレックスタイムの導入、育児休業、看護休暇など、子育て者に配慮した労働条件・制度があり、それが実際に活用できる職場環境であること」、「夫が家事や育児を分担し、協力すること」を上位に挙げています。

【 図2-9 就労環境について(就学前児童の保護者) 】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

【 図2-10 就労環境について(小学校1～3学年児童の保護者) 】



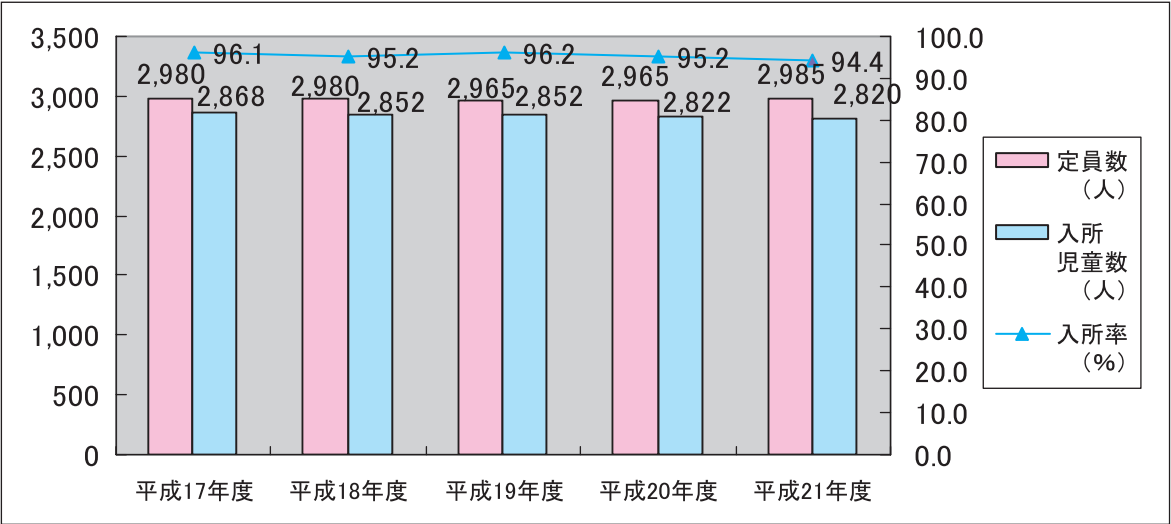
資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

3 保育サービス等の状況

(1) 保育所等の状況

平成21年4月1日現在の三条市内の保育所数は、認可保育所が30か所（公立20、私立10）、幼児保育を実施している児童館が1か所（公立）設置されており、合計2,820人の児童が入所しています。

【 図2-11 保育所の定員数・児童数及び入所率 】



資料：子育て支援課(各年度4月1日現在)

【 表2-2 保育所等の概要 】

単位：人

区 分		平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
公立	施設数	27	26	24	23	21
	定員数	2,170	2,080	2,065	1,965	1,815
	入所児童数	1,964	1,865	1,863	1,733	1,584
	入所率 (%)	90.3	89.7	90.2	88.2	87.3
私立	施設数	6	7	7	8	10
	定員数	810	900	900	1,000	1,170
	入所児童数	904	967	989	1,089	1,236
	入所率 (%)	111.6	107.4	108.9	108.9	105.6
合計	施設数	33	33	31	31	31
	定員数	2,980	2,980	2,965	2,965	2,985
	入所児童数	2,868	2,852	2,852	2,822	2,820
	入所率 (%)	96.1	95.2	96.2	95.2	94.4

資料：子育て支援課(各年度4月1日現在)

(2) 就学前児童の状況

平成21年4月1日現在の就学前児童の居場所としては、保育所以外では、家庭での保育が高い割合を占めています。

【 表2-3 平成21年4月1日現在の就学前児童の状況 】

単位：人

区分	保育所		幼稚園		家庭	その他	計
	公立	私立	公立	私立			
児童数	1,534	1,214	14	512	2,485	74	5,833
比率 (%)	47.1		9.0		42.6	1.3	100.0

資料：子育て支援課

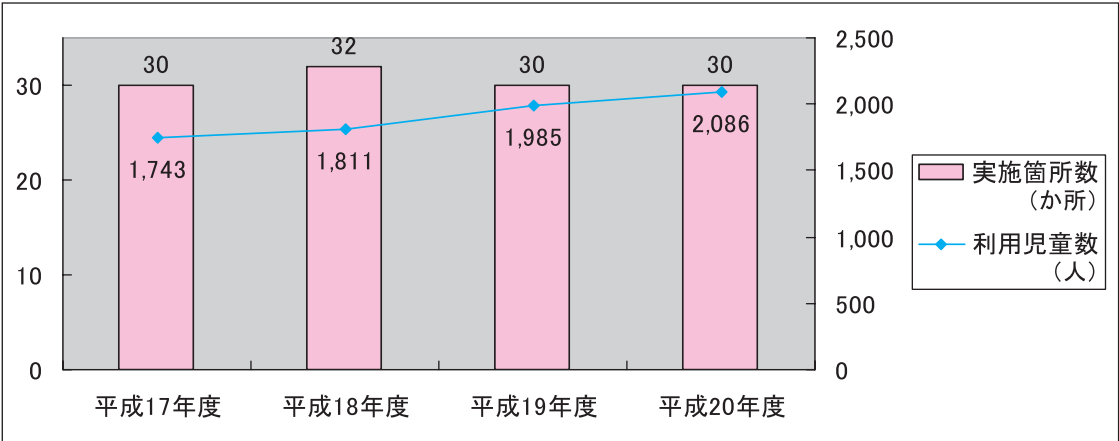
(3) 特別保育の状況

① 延長保育

延長保育は、全施設で実施しており、利用児童数は、平成20年度では2,086人となっています。

特に利用人数については、平成17年度から年々増加傾向にあります。

【 図 2-12 延長保育実施箇所及び利用児童数の推移 】

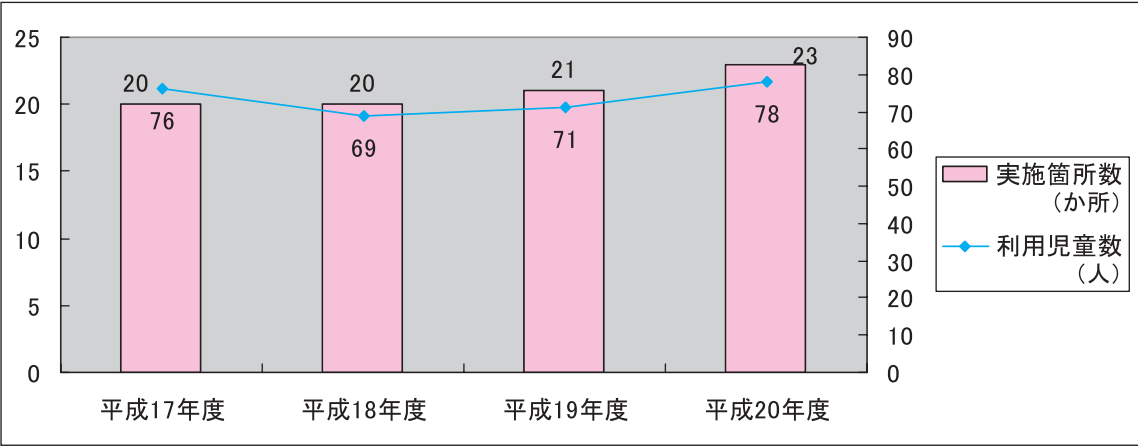


資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

②乳児保育

乳児保育は、平成20年度では23か所で実施しており、利用児童数は、78人となっています。

【 図2-13 乳児保育実施箇所及び利用児童数の推移 】

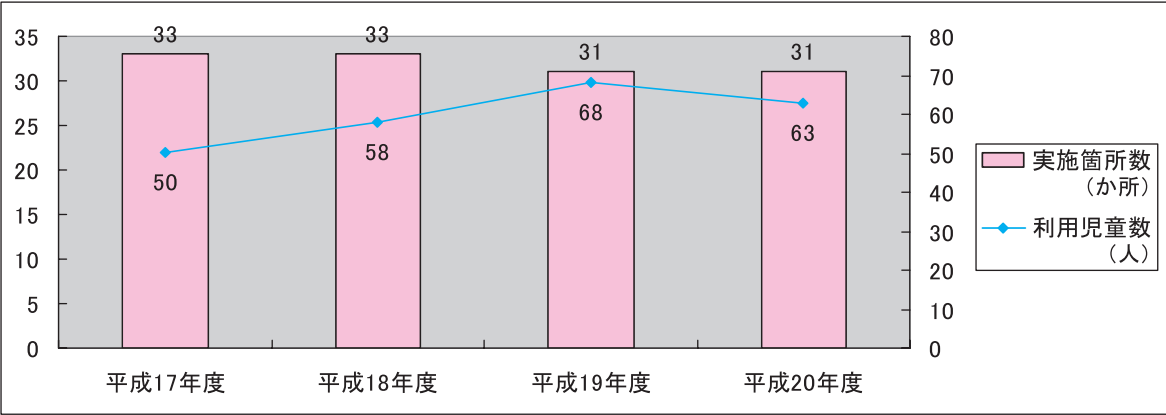


資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

③障がい児保育

障がい児保育は、平成20年度では31か所で実施しており、利用児童数は、63人となっています。

【 図2-14 障がい児保育実施箇所及び利用児童数の推移 】

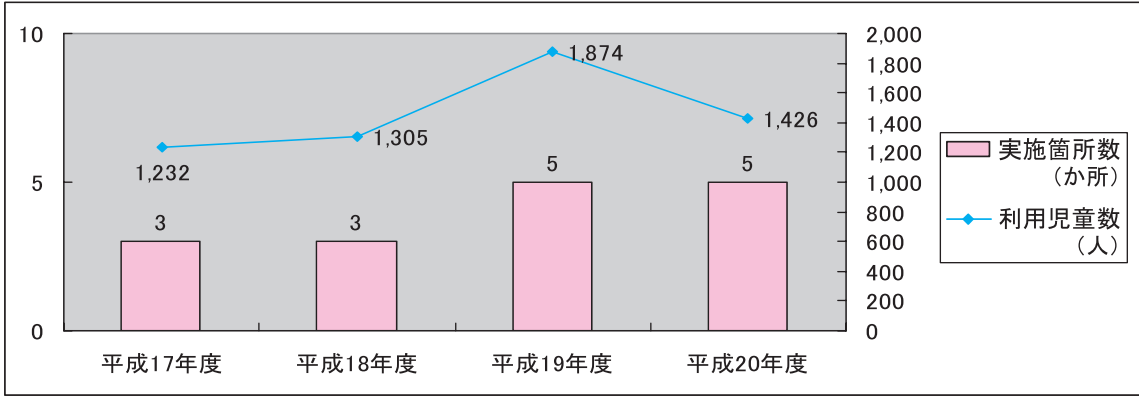


資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

④一時保育

一時保育は、平成20年度では5か所で実施しており、利用児童数は、1,426人となっています。

【 図2-15 一時保育実施箇所及び利用児童数の推移 】



資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

(4)地域子育て支援センターの概要

地域子育て支援センターは、平成20年度では5か所設置されています。育児についての相談・アドバイス、保護者同士の交流の場の提供など、各種支援メニューを展開しています。

【 表2-3 子育て支援センター利用の推移 】

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
子育てひろば利用者数(人)	20,666	21,561	30,540	35,026
育児相談件数(件)	440	519	529	821
育児講座開催回数(回)	78	70	73	77

資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

(5) 幼稚園の概要

幼稚園は、平成20年度では8園（公立1、私立7）が設置されています。園児数は平成16年以降、減少傾向にあります。

【表2-4 幼稚園の概要】

		平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年	平成 19 年	平成 20 年	平成 21 年
公立	園 数(園)	1	1	1	1	1	1
	学 級 数	2	2	2	2	2	2
	園 児 数(人)	22	23	25	16	17	14
	教職員数(人)	5	5	5	5	5	4
私立	園 数(園)	7	7	7	7	7	7
	学 級 数	36	38	37	34	34	35
	園 児 数(人)	652	615	567	522	499	488
	教職員数(人)	78	73	73	73	72	73
合計	園 数(園)	8	8	8	8	8	8
	学 級 数	38	40	39	36	36	37
	園 児 数(人)	674	638	592	538	516	502
	教職員数(人)	83	78	78	78	77	77

資料：子育て支援課(各年5月1日現在)

4 放課後子どもプランの状況

保護者が労働等により昼間家庭にいない子どもたちが安全・安心に過ごせる居場所を確保するため、児童館や学校の教室等を利用した児童クラブを平成20年度で20か所設置しています。

また、平成19年度から全児童を対象に地域の方々の参画によりスポーツや文化活動を行う放課後子ども教室を8か校で実施しています。

【表2-5 児童クラブ・放課後子ども教室の利用状況】

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度
児童クラブ数	13	13	19	20
延利用人数(人)	81,959	85,723	94,463	107,962
放課後子ども 教室実施数			8	8
参加者数(人)			11,242	14,377

資料：子育て支援課(各年度3月31日現在)

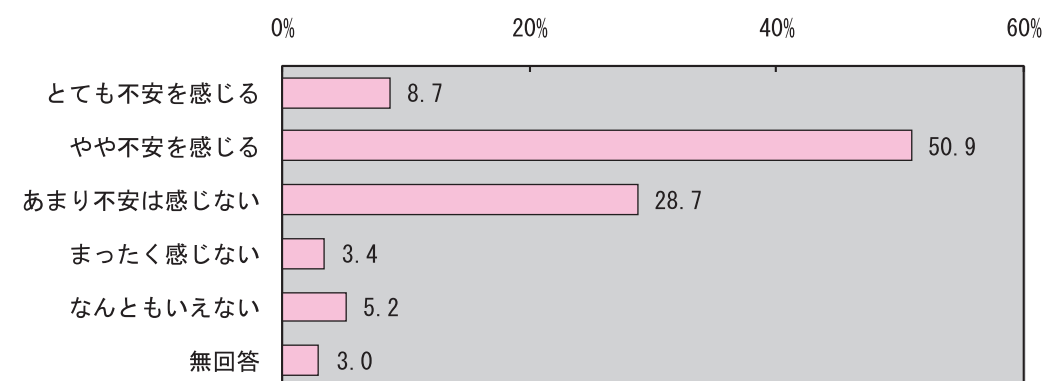
5 親と子どもの状況等

(1) 子育ての実態

① 子育てに関して不安を感じる割合

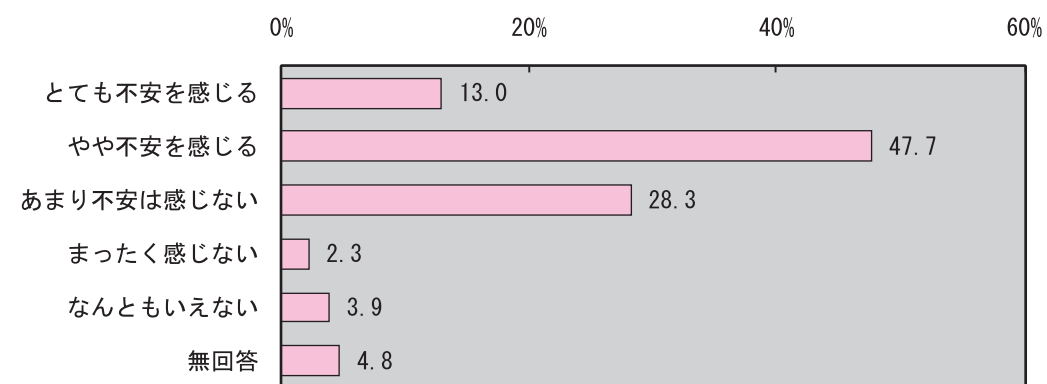
三条市の就学前の子どもと小学校1～3学年の子どもの保護者のうちの約60%近くが、子育てに関して「とても不安を感じる」「やや不安を感じる」と答えています。

【図2-16 子育てに関して不安を感じる割合(就学前児童の保護者)】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

【図2-17 子育てに関して不安を感じる割合(小学校1～3学年児童の保護者)】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

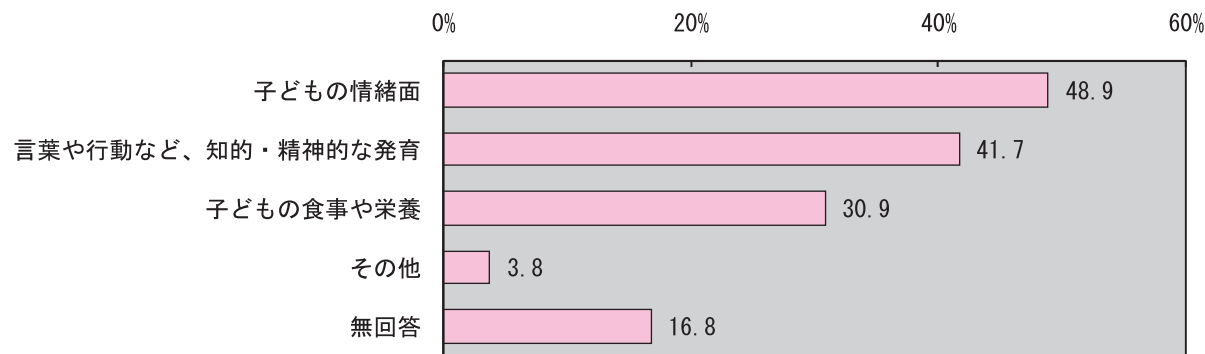
② 子育てについての悩み

子育てについての悩みは、就学前・小学1～3学年の保護者ともに「子どもの情緒面」が最も多く約49%となっています。

次いで、就学前では「言葉や行動など、知的・精神的な発育」が約42%、「子どもの食事や栄養」約31%と答えています。

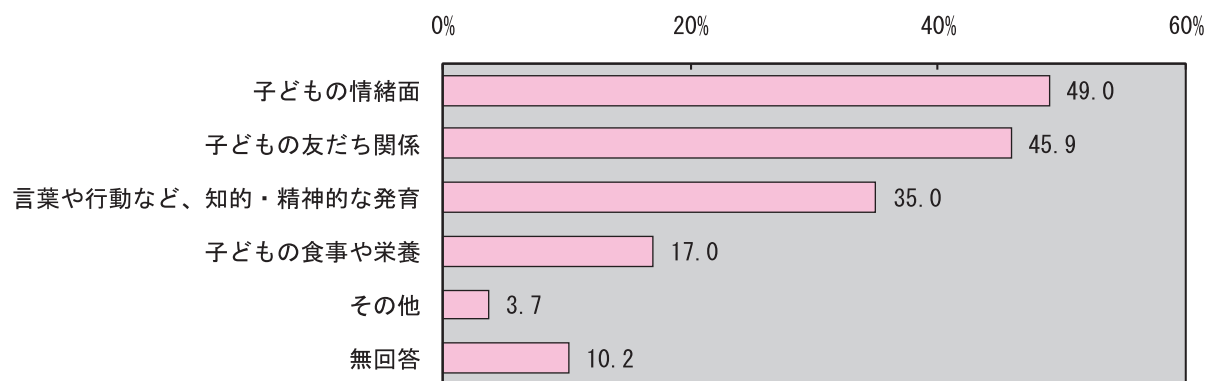
小学1～3学年の保護者では、「子どもの友だち関係」約46%、「言葉や行動など、知的・精神的な発育」が35%と答えています。

【 図2-18 子育てについての悩み(就学前児童の保護者) 】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

【 図2-19 子育てについての悩み(小学1～3学年児童の保護者) 】

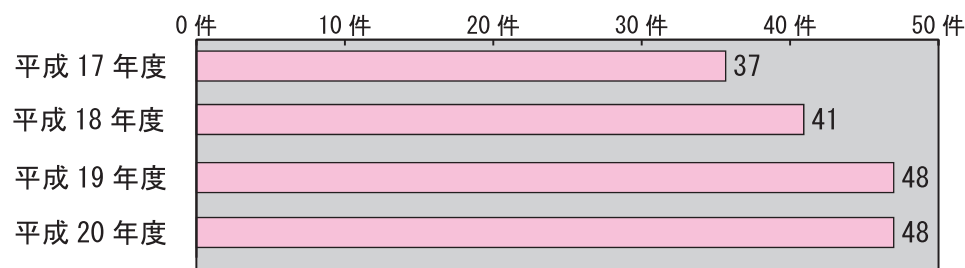


資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

(2) 児童虐待に関する相談状況

三条市の児童虐待に関する相談件数は、平成17年度37件、平成18年度41件、平成19年度48件、平成20年度48件となり、横ばいとなっていますが、相談ケースの対応回数は、平成19年度では751回に対し、平成20年度は1,165回と増加し、相談内容が複雑、多岐に渡っているケースが多くなっています。

【 図2-20 児童虐待相談件数の推移 】



資料：子育て支援課

(3) いじめ・不登校児童生徒数の状況

いじめの認知数は平成19年度から急に増加していますが、平成18年度でいじめの定義が変わり、早期発見・早期対応に努めた結果と捉えています。

不登校児童生徒数については、小学校では減少傾向にありますが、中学校では逆に増加傾向にあり、特に平成20年度は前年度に比べて大幅に増加しました。

【 表 2-6 いじめ認知(発生)件数の推移 】

単位：件

	小学校	中学校	合 計
平成17年度	5	20	25
平成18年度	13	11	24
平成19年度	26	24	50
平成20年度	24	36	60

資料：学校教育課

【 表 2-7 不登校児童生徒数の推移 】

単位：人

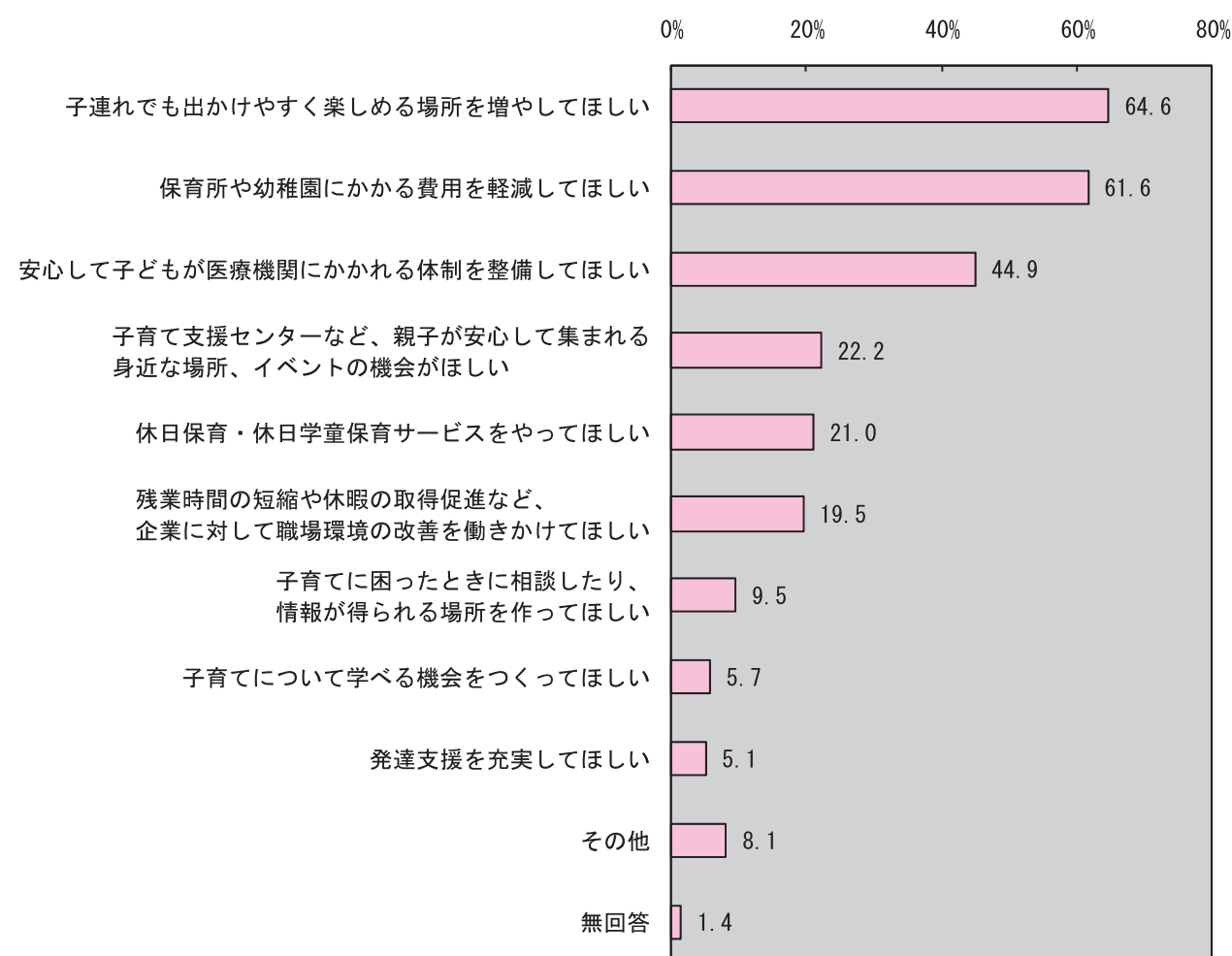
	小学校	中学校	合 計
平成17年度	19	66	85
平成18年度	24	59	83
平成19年度	21	65	86
平成20年度	17	83	100

資料：学校教育課

6 市の子育て支援に期待すること

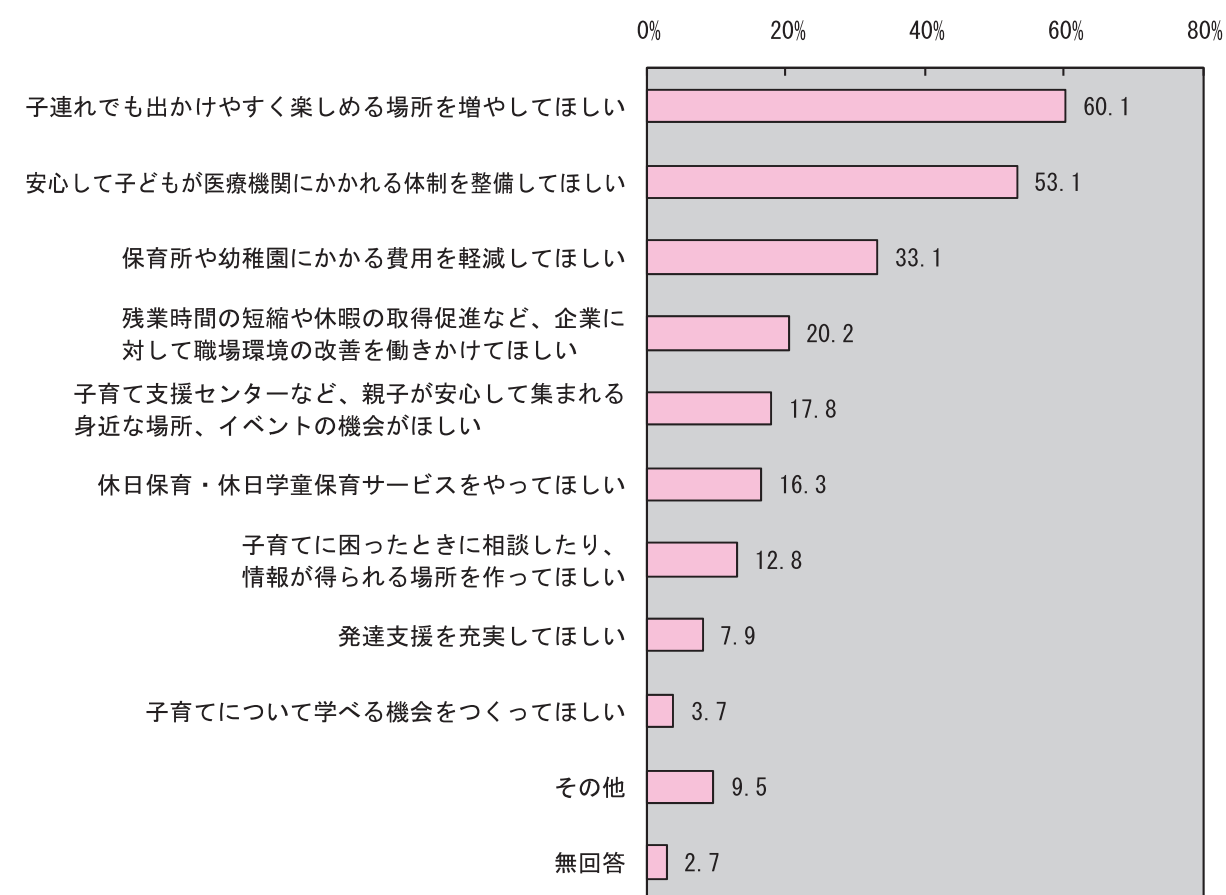
「三条市次世代育成支援行動計画策定のためのアンケート調査」で、「市の子育て支援について特に期待することは何ですか。」と尋ねた結果、就学前児童の保護者、小学校1～3学年児童の保護者ともに「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やす」が最も多く60%を越えています。次に多いのが、就学前児童の保護者では「保育所や幼稚園にかかる費用の軽減」を挙げ、小学校1～3学年児童の保護者では「安心して子どもが医療機関にかかる体制を整備してほしい」を挙げています。

【 図2-21 市の子育て支援についての期待(就学前児童の保護者) 】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

【 図2-22 市の子育て支援についての期待(小学1～3学年児童の保護者) 】



資料：三条市次世代育成支援行動計画（後期計画）策定のためのアンケート調査

7 現状分析のまとめと課題

【1 楽しい子育てへの支援】

核家族化の進行や地域コミュニティの希薄化、子育てに関する知識不足などから、子育てに対する不安感、負担感が子育て家庭に根強くあります。そこで、これらを軽減し、子育ての楽しさが実感でき、子どもも親も幸せを感じることができるよう、親子が気軽に集える場づくりや子育て情報発信の充実などの支援が必要です。

【2 子どもの健全育成】

次代を担う子どもの健全育成には、核家族化、少子化、情報など、子どもを取り巻く社会変化に対応して、幼児期から義務教育終了まで、一貫した教育を進める必要があります。

また、現代の子どもは、テレビゲームや携帯型ゲームの流行により、家庭内に引きこもって遊ぶことが多くなっていることから、家庭、学校以外で子ども同士が交流する居場所づくりを整備し、様々な交流の体験活動を通して、社会性を身につけることができるような支援が必要です。

【3 子育てと仕事との両立】

子育てと仕事の両立を志向する家庭の多くが、「子育てに対する職場の理解と支援」や「保育施設」を求めています。子育てしやすい職場環境の充実や家庭生活と職業生活のバランスがとれる多様な働き方が選択できるよう、市内事業所への啓発のほか、学童期も含めた保育の充実が必要です。

【4 子育てをみんなで支える社会づくり】

虐待やいじめなどが社会問題となる中、次代を担う子どもを守り、子どもの権利が最大限尊重されるよう配慮する社会づくりが求められています。そこで、子どもと子育て家庭を社会全体で支え合う市民意識の醸成が必要です。

【5 総合サポート】

今日、虐待、いじめ、不登校、発達障がい、引きこもりなどに苦しむ子ども・若者の実態は、ますます複雑化・深刻化しています。

育児不安に悩む親、心を開かない子ども・若者に対し、支援が途切れたり、個に応じた支援が不十分になったりするおそれがあり、継続的な支援の充実・強化は喫緊の課題となっています。

そこで、社会生活を円滑に営む上での困難を有する子ども・若者に対し、関係機関等が連携して個に応じた支援を継続的に行えるようにするために構築した総合サポートシステムを着実に機能させる必要があります。